

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

## 未来を見つめて

南会津町立田島中学校

3年 大内 鈴音

檜沢小学校と田島中学校。私がお世話になった大好きな学校です。三春町から転校してきて、初めて檜沢小学校を見た時の感動を今でもはっきりと覚えています。木で作られ、光が降り注ぐ温かみのある校舎。その素晴らしい環境の中で、私は楽しい6年間を過ごすことができました。その頃は、学校を建設するためには、どこからお金が出ているのかなど、考えたこともありませんでした。

中学校に入学し、とても驚いたことは配付された教科書類の多さでした。入学式に校長先生から、「この教科書は、国からいただきました。大切に使って、勉強をがんばって下さい。」と励ましの言葉をいただきました。3年生になり、「税」について知り、改めて私達はたくさんの場面で、「税」にお世話になっているのだと分かりました。「全国の小・中学生への教科書費はいったいいくらになるのだろうか。」「1つの学校ができるまでにはいくら費用がかかるのだろうか。」など、だんだん興味がふくらんでいきました。

資料で調べたところ、平成24年度の、「公立学校の児童・生徒1人当たり年間教育費の税金での負担額」は1年間で小学生約86万3千円、中学生約99万3千円、義務教育9年間でかかる費用は約815万7千円でした。私は、このようにたくさんの税による補助金が出ているとは思っていませんでした。そして、「勉強は嫌いだ。めんどくさい。」などと考えていた自分を反省し、とても申し訳なく思いました。

昨年まで、中学校は耐震工事をしていました。「あー、学校古くなったから工事をしてるんだな。あとどれくらいかかるのかな。ちょっと音がうるさいな。」と他人事のように、そして自分勝手なことを思っていた自分がいました。でも、工事が終了しさらにきれいにな

った校舎を見た時、私達が安全に安心して学校生活を送れるのは、たくさんの人が関わって下さっていること、そして貴重な税金のおかげだと言うことを身にしみて感じました。

あと半年で中学校生活ともお別れです。使い慣れ親しんだ机やイス、ロッカー、大好きな給食、そして居心地の良い教室。どれもが私の大切な宝物。最近、両親と将来のことをよく話します。そして、父は未来の孫のことも、目を細めながら話します。「かわいい孫にも、幸せになってもらうために、おとうさんは今まで以上に、元気に働くぞ。」私も大人になって、社会の一員になった時、未来の子供達が楽しく、たくさんの宝物を作れるように、1つでもいいから、自分ができることを、責任を持って関わっていかれたらと思います。この夏休み、「税」の学習をすることで、今の自分の暮らしと未来について、そして社会が支え合うことの大切さについて学ぶことができ、少し成長したような気がします。